

書き初めをする意味

書写担当 高木 博幸

書き初めは古くから正月の二日に、新年の抱負を書き、字の上達を願って行われてきたといわれています。今年の校内書き初め展も子どもたちの力作が並びました。

一年生の初めての硬筆による書き初め、一年成長した二年生、三年生の初めての毛筆による作品から、四、五、六年生へと順に見ていくと、その文字に確かな子どもたちの学習の積み重ねと成長を実感します。わかば学級は一年生から六年生まで毛筆で大きな用紙に書き上げました。文字から一人一人の個性も感じられる作品になりました。

一年後はどんな作品が並ぶでしょうか。一人一人の成長を楽しみにしています。

道德授業地区公開講座

道德担当 室岡 宗一朗

道德科の教材は、内容によって四つのカテゴリーに分けられています『自分自身について』『人との関わりについて』『集団や社会との関わりについて』『生命や自然、崇高なものとの関わりについて』。今年度の道德授業地区公開講座では、学校全体で『自分自身について』に関する教材を選び、授業を実施しました。このカテゴリーは、正直に行動することや自分の個性を伸ばすこと、目標に向かって努力を続けていくことなどについて考えます。様々な教材を通して、自分の伸ばしたいところや今の自分の課題を内省していきます。

一月二十五日(土)に開催された道德授業地区公開講座には、たくさんさんの保護者の方にお越しいただき、誠にありがとうございました。四時間目の意見交換会では、「学校の道德科では、子どもたちの心に種を蒔いている」という話をしました。これからも学校では、道德の種をたくさん蒔いていきますので、ご家庭でも話を聞いてみてください。

誰もが楽しく過ごせるように

生活指導主任 石井 康介

「いつもの笑顔と違う。無理して笑っているのかな。」「いつもより話しかけてくれるけれど、何か伝えたいことがあるのかな。」私たち教員は、子どもたちの様子を常に気にしながら過ごしています。いじめを見逃さず、誰もが楽しく過ごせる学校にしたいと考えているからです。

いじめに関する授業の実施、お互いに認め合える環境づくり、あいさつの指導、教室内の整理整頓など、いじめの未然防止につながることは、常に行っています。また、西東京市では、六月、十一月、二月は、「ふれあい月間」とし、いじめ防止に関する具体的な取組を行う月としています。田無小では、全校児童にアンケートを取り、嫌な思いをしている子がいないか調査をします。もし、いた場合には、担任を中心に、学年の教員、専科の教員、養護教諭など、複数の教員が連携して解決に向かうようにしています。

クラブ活動

特別活動部 小室 秀幸

四年生になると、子どもたちが楽しみにしているクラブ活動が始まります。共通の興味や関心を追及する活動を通して、異学年集団の交流を深めることができるのが、クラブ活動のよさです。今年度は、運動系と文化系合わせて、十五のクラブが活動を行っています。みんなで意見を出し合って活動の計画を立てたり、クラブ長たちが率先して楽しく活動するための工夫を考えたりして、有意義な時間を過ごしています。

二月にはクラブ発表会があり、活動の様子や成果を伝え合い、三年生は、その発表を見て、次年度入りたいクラブを考えます。

高学年はクラブを運営してきた達成感を味わい、中学年は高学年へのあこがれをもったり、活動の意義や楽しさを感じられたりできるよう、児童と関わっていきます。